

感謝のことば

送辞

希望坂・夢見坂の、見上げるほどの雪の回廊が、この冬の厳しさを物語っています。そのような景色の中でも、登校する私たちを包む暖かな空気に、ようやく春の訪れを感じられるようになってきました。今日、この佳き日を迎えられた、東成瀬中学校第74期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今年度、これまでの「あたりまえ」が、あたりまえでなくなった日々。学校生活にも様々な影響がありました。しかし、みなさんは、どんなときも笑顔の絶えない、明るい雰囲気です。学校中を包み込み、多くの場面で私たち後輩を支えてくださいました。特に、委員会活動や部活動など、学年の枠を超えた活動では、優しく声をかけ、わからないことは丁寧に教えてくださったことを、今でも鮮明に覚えています。

みなさんが最高学年として迎えた今年度。運動部の大会や吹奏楽部の演奏の機会も限られたものとなってしまいました。それでも、目標達成に向けて練習に取り組み、その一瞬にかける真剣なまなざしは、私たちの心にずっと焼き付いています。私たちも、「がんばらなければならない」という思いを一層強くしました。

また、先輩方は様々な行事で、力強く、私たち後輩をリードし、最高学年としてあるべき姿を示してくださいました。体育祭や球技大会では、一人一人が元気いっぱい、熱いプレーで、会場を盛り上げてくださいました。その中で、例えば、思い通りのプレーができなくても決して諦めない姿。敵・味方に関わらず、声援を送り続ける姿は、私たちの心を熱くし、最上級生の頼もしさを目の当たりにしました。

さらに、先輩方の偉大さを感じたのは東中祭です。学年全員で創り上げた「水戸黄門」。個性的な登場人物と、役になりきった演技が、会場にいた全員の心を釘付けにしたことは間違いありません。また、その演技を支えた裏方の存在も大きかったことと思います。たくさんの笑いと、感動、そして、最後に語られたみなさんの「夢」は私たちの心にしっかりと刻まれました。

さらに、同じ日に披露された学年合唱は、聴く人の心を動かす迫力がありました。ここにたどりつくまで、どれほどの葛藤や努力があったことでしょうか。きっと、1・2年生での多くの経験が生かされているのだと感じました。「私たちも先輩方のような、聴く人の心に響く合唱がしたい」という目標をもちました。

いつでも、どこでも、明るい笑顔で包んでくださった先輩方。みなさんと共に過ごした日々は、私たちにとってかけがえのない思い出ばかりです。本当にお世話になりました。今日、みなさんは、中学校生活と共にあった希望坂・夢見坂をおり、それぞれが選んだ道へと、歩み出すこととなります。時には、立ち止まりそうになることもあるかもしれませんが。そのような時も、この学び舎で過ごした仲間との思い出を胸に、明るい未来を見すえ、歩み続けられることと信じています。私たち在校生は、みなさんからいただいた、たくさんの優しさや、誇り高い伝統をしっかりと受け継いでいきます。そして、次の後輩たちへとつないでいくよう、みんなで力を合わせていくことをお約束します。

みなさんの未来が輝かしいものとなりますよう、今後のご活躍とご健勝をお祈りして、送辞と致します。

